

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

社会福祉学科、福祉心理学科、介護福祉学科はどの学科も国家資格取得を目指す学科である。今後、社会の高齢化と少子化が進む中で、一人一人のクライアントの自立した生活を支えていくためには、きちんとした価値観を備えた福祉専門職の養成が急務である。しかし、各学科に入学してくる学生は、動機が多様化しており、また、学力の格差は広がる一方である。専任教員の教育力の向上とともに、学生の学習の動機づけ及び単なる学力を超えた実践力の養成には、専任教員と現場とが連携して、実習演習および通常の学内授業を行ってことが不可欠である。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年4月1日現在

No		名 前	所 属
1	非常勤講師	高井正己	マロニエ医療福祉専門学校
2	非常勤講師	山口佳志	マロニエ医療福祉専門学校
3	非常勤講師	石網秀行	マロニエ医療福祉専門学校
4	①職能団体推薦委員	永島光枝	栃木県社会福祉士会
5	③社会福祉学科外部委員	松島陵介	社会福祉法人うまぐりの里ゆーあい工房
6	③福祉心理学科外部委員	渡部眞江	社会福祉法人なすびの里
7	③介護福祉学科外部委員	北條豊	合同会社あゆみの森
8	校長	入江吉晴	マロニエ医療福祉専門学校
9	福祉学部長	樽林行雄	マロニエ医療福祉専門学校
10	社会福祉学科・福祉心理学科長	中島賢二	マロニエ医療福祉専門学校
11	介護福祉学科長	金久保浩	マロニエ医療福祉専門学校

(開催日時)

第1回 平成26年10月予定 18:00～18:45

第2回 平成27年1月予定 18:00～18:45

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

「相談援助実習」

実習協力依頼の他、実習計画書・実習生調査等の情報提供、実習を行う学生の事前オリエンテーションの依頼。さらに本校の相談援助実習のマニュアルを提供し、職場実習・職種実習・ソーシャルワーク実習としてそれぞれの段階ごとのプログラムを組んでいる。実習期間においては担当教員による週1回の実習巡回において実習指導者と実習生からの実習プログラムの進捗を確認し、それぞれの課題について意見交換等を行いながら、連携し学生指導を行っている。

「精神保健福祉援助実習」

実習協力依頼の他、実習計画書・実習生調査等の情報提供、実習を行う学生の事前オリエンテーションの依頼、また、精神科病院でのソーシャルワーカーの役割・地域における支援の在り方等を現場で体感できるようなプログラムを組むため、実習担当者と事前段階及び巡回時に打合せを行っている。実習期間中は担当教員による週1回の実習巡回で実習指導者と実習生から実習プログラムの進捗状況を確認し、それぞれの課題について意見交換等を行いながら、連携して学生への指導を行っている。

科目名	科目概要	連携企業等
相談援助実習	1現場体験を通じて社会福祉専門職として仕事をするうえで必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。 2「専門知識」、「専門技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要な資質・能力・技術を習得する。 3職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。 4具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 5関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。	社会福祉法人はくつる会 工房 つばさ 社会福祉法人なすびの里 社会福祉法人とちぎ健康福祉協会 桜ふれあいの里 社会福祉法人うまぐりの里 ゆーあい工房 社会福祉法人とちのみ会 障がい者相談支援センターみどり (総数 9)
精神保健福祉援助実習	1精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 2精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 3精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 4総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	医療法人朝日会 朝日病院 医療法人秋山会 両毛病院 栃木県立 岡本台病院 社会福祉法人プロ・ニューの森 ゆっ蔵 特定非営利活動法人 地域活動支援センター 自由空間ポ一 (総数 10)

3. 教員の研修等		
(教員の研修等の基本方針) 平成21年度より実施された社会福祉士および介護福祉士養成教育カリキュラムの見直し及び平成24年度より実施された精神保健福祉士養成教育カリキュラムの見直しに伴い、教員研修が義務付けられたので、教員研修を受講することで、本校での教員研修に代えてきた。平成25年度をもってすべての専任教員が実習・演習担当教員研修を受講したので、平成26年度からは個々の教員の課題に対応し、実務に関する教員研修を実施していきたい。		
4. 学校関係者評価		
(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)		
平成26年4月1日現在		
No	名 前	所 属
1	非常勤講師	高井正己
2	非常勤講師	山口佳志
3	非常勤講師	石綱秀行
4	①職能団体推薦委員	永島光枝
5	③社会福祉学科外部委員	松島陵介
6	③福祉心理学科外部委員	渡部眞江
7	③介護福祉学科外部委員	北條豊
8	校長	入江吉晴
9	福祉学部長	樽林行雄
10	社会福祉学科・福祉心理学科長	中島賢二
11	介護福祉学科長	金久保浩
(学校関係者評価結果の公表方法)		
URL: http://www.maronie.jp		
5. 情報提供		
(情報提供の方法)		
URL: http://www.maronie.jp		

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 社会福祉学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技
必修	選択必修	自由選択								
○			人体の構造と機能及び疾病	① 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ② 国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要について理解する。 ③ リハビリテーションの概要について理解する。	1 通年	60	4	○		
○			心理学理論と心理的支援	① 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。 ② 人の成長・発達と心理の関係について理解する。 ③ 日常生活と心の健康との関係について理解する。 ④ 心理的支援の方法と実際について理解する。	1 通年	60	4	○		
○			社会理論と社会システム	① 社会理論による現代社会の捉え方を理解する。 ② 生活について理解する。 ③ 人と社会について理解する。 ④ 社会問題について理解する。	1 後期	30	2	○		
○			現代社会と福祉	① 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 ② 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 ③ 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 ④ 福祉政策の課題について理解する。 ⑤ 福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む)の関係について理解する。 ⑥ 福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策を含む)の関係について理解する。 ⑦ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。	1 通年	60	4	○		
○			社会調査の基礎	① 社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。 ② 統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。 ③ 量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。	2 前期	30	2	○		

○		相談援助の基盤と専門職	<ul style="list-style-type: none"> ① 社会福祉士の役割(総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む)と意義について理解する。 ② 精神保健福祉士の役割と意義について理解する。 ③ 相談援助の概念と範囲について理解する。 ④ 相談援助の理念について理解する。 ⑤ 相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。 ⑥ 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。 ⑦ 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。 	1 通年	60	4	○		
○		相談援助の理論と方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 相談援助における人と環境の相互作用に関する理論について理解する。 ② 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 ③ 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する(介護保険法による介護予防サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画についての理解を含む)。 ④ 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。 ⑤ 相談援助の実際(権利擁護活動を含む)について理解する。 	2 通年	120	8	○		
○		地域福祉の理論と方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域福祉の基本的考え方(人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む)について理解する。 ② 地域福祉の主体と対象について理解する。 ③ 地域福祉にかかる組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。 ④ 地域福祉の推進方法(ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む)について理解する。 	1 通年	60	4	○		
○		福祉行財政と福祉計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 福祉の行財政の実施体制(国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む)について理解する。 ② 福祉行財政の実際について理解する。 ③ 福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。 	2 前期	30	2	○		
○		福祉サービスの組織と経営	<ul style="list-style-type: none"> ① 福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など)について理解する。 ② 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。 ③ 福祉サービスの経営と管理運営について理解する。 	2 後期	30	2	○		

○		社会保障	<ul style="list-style-type: none"> ① 現代社会における社会保障制度の課題について理解する。 ② 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。 ③ 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 ④ 社会保障制度の体系と概要について理解する。 ⑤ 年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。 ⑥ 諸外国における社会保障制度の概要について理解する。 	1 通年	60	4	○		
○		高齢者に対する支援と介護保険制度	<ul style="list-style-type: none"> ① 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労支援の実態を含む）について理解する。 ② 高齢者福祉制度の発展過程について理解する。 ③ 介護の概念や対象及びその理念等について理解する。 ④ 介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。 ⑤ 終末期ケアのあり方(人間観や倫理を含む)について理解する。 ⑥ 相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。 	2 通年	60	4	○		
○		障害者に対する支援と障害者自立支援制度	<ul style="list-style-type: none"> ① 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行、就労支援の実態を含む）について理解する。 ② 障害者福祉制度の発展過程について理解する。 ③ 相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。 	1 通年	60	4	○		
○		児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力(D.V)の実態を含む)について理解する。 ② 児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。 ③ 児童の権利について理解する。 ④ 相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。 	2 前期	30	2	○		
○		低所得者に対する支援と生活保護制度	<ul style="list-style-type: none"> ① 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉需要と実際の実際について理解する。 ② 相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。 ③ 自立支援プログラムの意義と実際の実際について理解する。 	1 前期	30	2	○		
○		保健医療サービス	<ul style="list-style-type: none"> ① 相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解する。 ② 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、他職種協働について理解する。 	1 後期	30	2	○		

○		就労支援サービス	<ul style="list-style-type: none"> ① 相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。 ② 就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。 ③ 就労支援分野との連携について理解する。 	2 後期	15	1	○		
○		権利擁護と成年後見制度	<ul style="list-style-type: none"> ① 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法、行政法の理解を含む）との関わりについて理解する。 ② 相談援助活動において必要となる成年後見制度(後見人等の役割を含む)について理解する。 ③ 成年後見制度の実際について理解する。 ④ 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。 	1 前期	30	2	○		
○		更生保護制度	<ul style="list-style-type: none"> ① 相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。 ② 更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。 ③ 刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解する。 	2 後期	15	1	○		
○		相談援助演習	① 相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得すると共に専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てることのできる能力を涵養する。	2 通年	150	10	△	○	
○		相談援助実習指導	<ul style="list-style-type: none"> ① 相談援助実習の意義について理解する。 ② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 ③ 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 	3 前期	90	3	○		
○		相談援助実習	<ul style="list-style-type: none"> ① 現場体験を通じて社会福祉専門職として仕事をするうえで必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を ② 「専門知識」、「専門技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要な資質・能力・技術を習得する。 ③ 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。 ④ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 ⑤ 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。 	3 前期	180	6			○

○		精神疾患とその治療	<ul style="list-style-type: none"> ① 代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。 ② 精神科病院等における専門治療の内容及び特性について理解する。 ③ 精神保健福祉士が精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。 ④ 精神医療・福祉との連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解する。 	2 通年	60	4	○		
○		精神保健の課題と支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 精神の健康についての基本的な考え方と精神保健学の役割について理解する。 ② 現代社会における精神保健の諸課題と、精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解する。 ③ 精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 ④ 国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。 	1 通年	60	4	○		
○		精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	<ul style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。 ② 精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。 ③ 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。 ④ 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。 	1 後期	30	2	○		
○		精神保健福祉の理論と相談援助の展開	<ul style="list-style-type: none"> ① 精神医療の特性(精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む)と精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。 ② 精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。 ③ 精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行なうリハビリテーション(精神科専門療法を含む)の知識と技術及び活用する方法について理解する。 ④ 精神障害者を対象とした相談援助技術(個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む)の展開について理解する。 ⑤ 精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。 ⑥ 精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解する。 ⑦ 地域リハビリテーションの更生と社会資源の活用及びケアマネジメント、コミュニティワーク(地域相談援助に係る組織、団体、関係機関及び専門職との連携についての理解を含む)の実際について理解する。 ⑧ 地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援(地域精神保健福祉活動)の意義と展開について理解する。 	1 通年	120	8	○		

○		精神保健福祉に関する制度とサービス	<ul style="list-style-type: none"> ① 精神障害者の相談援助活動と法（精神保健福祉法）との関わりについて理解する。 ② 精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。 ③ 精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等について理解する。 ④ 更生保護制度と医療観察法について理解する。 ⑤ 社会資源の調整・開発に関わる社会調査の概要と活用について基礎的な知識を理解する。 	2 通年	60	4	○		
○		精神障害者の生活支援システム	<ul style="list-style-type: none"> ① 精神障害者の生活支援の意義と特長について理解する。 ② 精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。 ③ 職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の日中活動支援を含む）について理解する。 ④ 行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。 	2 後期	30	2	○		
○		精神保健福祉援助演習(専門)	<ul style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養すること。 ② 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 ③ 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 	2 通年	60	4	△	○	
○		精神保健福祉援助実習指導	<ul style="list-style-type: none"> ① 精神保健福祉援助実習の意義について理解する。 ② 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な体験や援助活動を専門的知識及び技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 	3 後期	90	3	○		

○		精神保健福祉援助実習	① 精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 ② 精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。 ③ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④ 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	3 後期	150	5			○
○		国家試験対策(共通科目)1	① 基本事項・重要事項を理解する。 ② 繰り返しにより重要事項の理解を深める。 ③ 国家試験に合格できる水準の学力を修得する。	2 通年	60	4		○	
○		国家試験対策(共通科目)2	① 基本事項・重要事項を理解する。 ② 繰り返しにより重要事項の理解を深める。 ③ 国家試験に合格できる水準の学力を修得する。	3 通年	120	8		○	
○		国家試験対策(社会専門科目)1	① 基本事項・重要事項を理解する。 ② 繰り返しにより重要事項の理解を深める。 ③ 国家試験に合格できる水準の学力を修得する。	3 通年	60	4		○	
○		国家試験対策(精神専門科目)1	① 基本事項・重要事項を理解する。 ② 繰り返しにより重要事項の理解を深める。 ③ 国家試験に合格できる水準の学力を修得する。	3 通年	60	4		○	
○		情報科学1	① WORDの基本操作、主要機能を身につけ、現場で活かせるようにする。	1 前期	30	2			○
○		情報科学2	① 職場で標準的に使用されているEXCELの基本操作、主要機能を身につけ、現場で活かせるようにする。	2 前期	30	2			○
○		介護技術1	① 介護の基本的技術(法)を習得さ a コミュニケーションの技法 b 状態の変化の確認と不調のきざし c 社会生活維持拡大への技法 d 食事 e 排泄 f 衣服の着脱 g 入浴 h 安楽と安寧の技法 i 身体の清潔 j 医療、看護対応時の介助 k 緊急事故時の対応	2 後期	60	4		△	○

(別紙様式4)

○		介護技術2	① 介護に適した住まい、住設備機器及び福祉用具について理解する。 a 安全で危険のない住まいや居住環境の整え b 福祉用具の概要と活用 ② 介護過程の展開方法について理解する。 ③ 記録のとり方と報告の仕方について理解する。	3 前期	60	4	△	○
○		福祉論文(卒論)	① 3年間で学んだことを基に学生自身で研究テーマを選定し、意見をまその作成過程を学生間のディスカッションにより熟成させる。	3 通年	60	4	○	
○		福祉ボランティア	① 自発的なボランティア体験により、さまざまな福祉の現場を体験 ② 地域における社会資源としての本校の位置づけを理解する。	1 2 3 通年	90	3		○
合計			41科目	2580単位時間(152単位)				